

令和2年度 須賀川市立西袋中学校の教育

《学校経営の理念》

- ◎地域の核となる学校として活気と品格ある学校を創造する。
- ◎生徒一人一人が持つ能力や可能性を引き出し、生徒の夢の実現に向けた教育活動を実践する。

《めざす学校像》

- 生徒が安心して楽しく学べる学校
- 生徒一人一人が夢や希望をもち、その実現を目指し意欲的に活動する学校
- 「勤労・勤勉」「自主・自律」の校風を基盤とし、誠実に活動する学校
- 保護者や地域と連携し、信頼される学校

《学校経営の方針》

- ① 職員の和を大切にし、生徒に向き合う時間を大切にできる学校経営を目指す。
(学校経営の目標)
- ② 喜びと充実感のある学校生活を推進する。
(教育活動の目標)
- ③ 落ち着きとうるおいのある教育環境を整える。
(教育環境の目標)
- ④ 家庭・地域社会との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。
(地域社会との連携)
- ⑤ 絶えず研修に励み、使命感にあふれた教師像を追求する。
(教師像)
- ⑥ 遵守事項を踏まえ、規律ある服務・勤務に努める。
(教師像)

教 育 目 標

《基本目標》
豊かな心をもち、実践力のあるたくましい生徒

《具体目標》

- 明朗な生徒
- ねばり強い生徒
- 深く考える生徒

本年度の重点

【目指す生徒像】

《重点目標》
生きる力を
身に付けた生徒

○ 明朗な生徒

- 健康で安全な生活習慣を身に付け、進んで体力の向上・健康の保持増進に努める。(心身の健康)
- 他者との望ましい関わり方を考え、積極的に行動する。(自他の尊重)

- ① 健康で安全な生活を送ろうとする意識の高揚
 - 組織的な健康相談、教育相談を実施する。
 - 交通事故絶無のための指導を徹底する。
- ② 体づくり、体力づくりの推進
 - 保健体育の授業や部活動、学校行事の関連を図った運営により効果を高める。
 - 体力テストの結果をもとに、小学校と連携を図りながら体力の向上を図る。
 - 健康な心身を培うために、家庭における望ましい食生活の実践について連携を図る。
- ③ 一人一人を認め合う学年・学級集団の育成
 - 学級における人間関係づくりを意識した学級経営を実践する。
 - 個を生かす場面を意図的に設定し、自己存在感や満足感を味わうことができるように努める。

- 不登校傾向生徒への支援（不登校0を目指す）
- 日常生活アンケートによる生徒の実態把握と教育相談（チャンス相談）の実施
- 日常的な交通指導の実施（交通事故0）
- 部活動への積極的参加 ○自分手帳の活用
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止の徹底

○ ねばり強い生徒

- 自分の立場や役割を自覚し、責任ある行動ができる。(役割と責任)
- 目標を持ち、その実現に向けて継続的に努力する。(理想の実現)

- ① 道徳教育の充実
 - 心に響く道徳教育を展開するため、特に道徳の授業の充実を図り、豊かな人間性の育成に努める。
 - 教科の指導内容や学校行事との関連を図るとともに、地域の特色を生かした体験活動等を通して道徳性を養う。
- ② 学級活動の充実
 - リーダーの育成や一人一人の役割・責任を明確にした係活動等を運営する。
 - 学習や諸活動において、お互いを高め合う学級集団づくりに努める。
- ③ 豊かな体験活動の拡充
 - キャリア教育の充実を図り、職業体験などの活動を実施する。
 - 保護者や地域との連携を図ったボランティア活動を推進する。

- 特別な教科道徳の指導充実
- 松明づくりと松明あかしへの参加
- 生徒会・学級活動の充実（一人一役）
- 情報の収集・共有と組織的対応（いじめ認知のスピード）
- 体験活動（1年）・職場体験（2年）・探究学習（3年）の実施
- ジュニアボランティア育成講座への積極的参加

《県中教育事務所学校教育指導の重点》

～「夢」や「希望」を実現する学校教育～

- ① まなび：「確かな学力」の向上
(授業づくり、継続的な検証改善サイクルの確立、学びの基盤づくり)
- ② きずな：「豊かな心」の育成(道徳教育の充実・教育相談体制の整備)
- ③ そだち：「健やかな体」の育成(体力の向上に関する取組の充実、食育・健康教育の推進)
- ④ とともに：「地域で共に学び、共に生きる特別支援教育」の充実(小中学校における特別支援教育の充実)

《須賀川市学校教育の重点》

～子どもの自尊意識を高め、個性や生き抜く力を育む
学校教育の推進～

- ① 豊かな心の育成
 - 道徳教育の充実 ○ 組織的・体系的な生徒指導
- ② 確かな学力の育成
 - 目指す学力の明確化と授業改善 ○ 学びの基盤づくり
- ③ 健やかな体の育成
 - 体力・運動能力向上策の推進
 - 健康教育と安全教育の充実

○ 深く考える生徒

- 望ましい学習態度や学習習慣を身に付け、学力の向上に努める。(学力向上)
- 自ら問題をとらえ、正しい判断に基づいて解決することができる。(問題解決能力)

- ① 「わかる・できる授業」の実践
 - 1時間ごとのめあてを明示し、まとめの時間を確保する。
 - 各教科で表現力育成を目指した授業を実践し「読む・聞く・話す・書く」等の言語活動を意図的に位置づける。
 - 協同的な学び(主体的・対話的な授業)を展開する。
 - 読書活動を推進し、読み取る力を育成する。
- ② 家庭学習のあり方の改善と習慣化
 - 保護者との連携により、家庭学習の時間を確保させる。
 - 自主学習の効果的な取り組み方を指導する。
- ③ 校内研修の活性化
 - 一人1研究授業を行い、事前と事後の協議により指導力の向上に努める。
 - 小学校との連携を強化し、9年間を見通した教育活動を展開する。(中学校体験ウィークの実施)

- 学力テスト数値目標（一人一人の学力の伸びを重視）
- 図書館教育の更なる充実（読書年間10冊以上）
- 家庭学習の定着と改善（自主学習ノート100%提出）
- 各種コンクールへの積極的参加
- 授業研究の実施・参加（一人1授業実践）
- 小学校との連携指導（学習習慣の共有）

